

(2) 東北



東北地域では、景気は持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は基調として増加している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

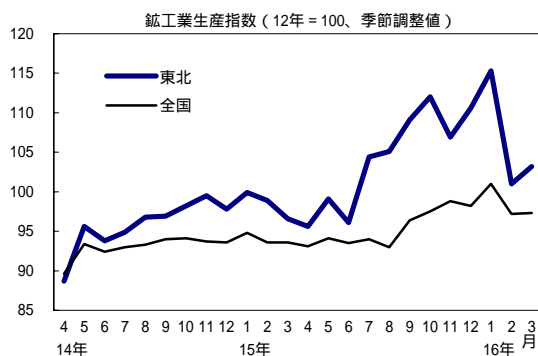
前回調査からの主要変更点

	前回（平成16年2月）	今回（平成16年5月）	
個人消費	やや弱含み	おおむね横ばい	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は基調として増加している。

電子部品・デバイスは、引き続き携帯電話やデジタル家電向け半導体等を中心に高水準なものの、前期の反動減が見られる。食料品・たばこは、冷凍水産物等の水産製品や清酒等の酒類の生産が低下し、減少している。情報通信機械は、DVDドライブが部品のトラブル、不良品の発生で生産減となったほか、パソコンやデジタルカメラがモデルチェンジの端境期に当たり生産調整したため、大きく減少している。一般機械は、自動車部品向け金型や設備投資による半導体製造装置の受注等により、増加傾向を維持している。電気機械は、電気計測器や電池等の生産が低下したため、減少している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

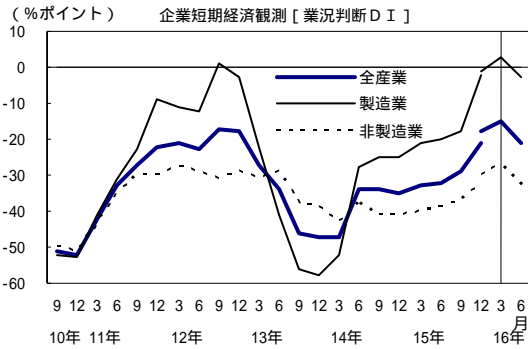
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
電子部品・デバイス	19.3	14.8	3.6	4.6	13.6
食料品・たばこ	12.9	0.5	9.3	5.4	12.0
情報通信機械	11.6	9.4	22.2	10.2	0.7
一般機械	8.6	11.3	9.3	8.7	12.4
電気機械	5.8	1.0	8.2	8.3	12.9
鉱工業	100.0	3.4	3.0	1.9	5.5

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

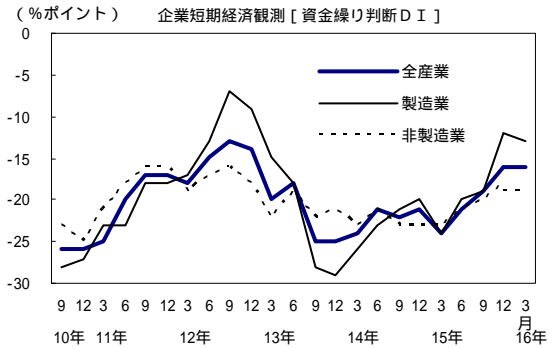
2. 1~3月期は速報値。

(備考) 平成16年3月の東北は速報値。

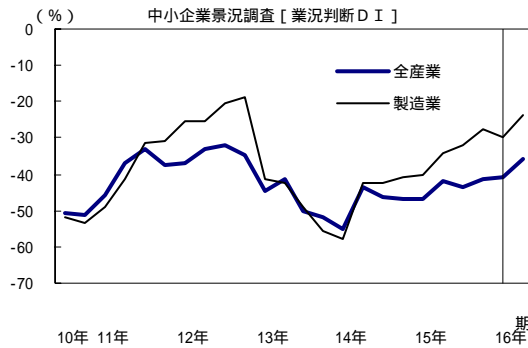
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。
企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。16年6月は予測。
なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。16年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (4月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「ここしばらく途絶えていた営業マンの社員教育等、前向きな教育やセミナーの要望が増えている (経営コンサルタント)」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた一方で、「設備関係及び半導体は繁忙となっているが、引き合い物件は短納期対応がほとんどであり、部材調達に間に合わず業績的には良くならない (電気機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答もみられた。

(3) 15年度の設備投資は前年度を大幅に上回る見込みとなっている。

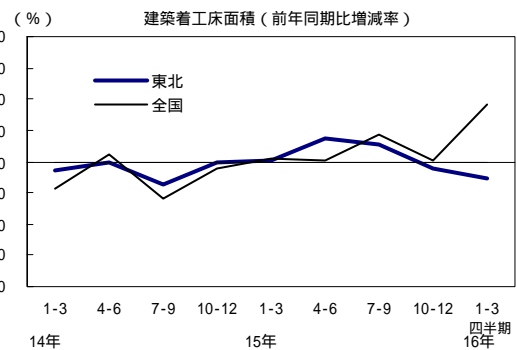
企業短期経済観測調査 [設備投資 (3月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	15年度実績見込み	16年度計画
全産業	18.5(0.0)	5.1
製造業	18.6(1.9)	20.2
非製造業	18.5(1.7)	7.8

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。

15年度実績見込み及び16年度計画ともに、調査見直し後の基準による。



(2) 東北

2. 需要の動向

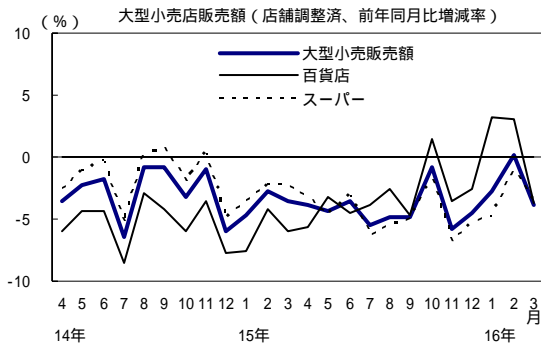
(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、1月は初売り及びクリアランスセールが好調だった衣料品が伸びたこと等から、3か月ぶりに前年を上回った。2月は紳士スーツや婦人春物コートが好調だった衣料品と、ブランド品に加えアクセサリーやギフト用ハンカチ等も好調だった身の回り品が伸び、2か月連続で前年を上回った。3月は身の回り品が堅調だったものの、新人向け紳士服等の衣料品が振るわず、3か月ぶりに前年を下回った。なお、日本百貨店協会によると、東北地区の4月の売上高は、前年同月比で4.4%減となっている。スーパーは、一部でBSE（牛海綿状脳症）や鳥インフルエンザ（高病原性鳥インフルエンザ）の影響が見られたものの、飲食料品が好調に推移した。しかし、衣料品と身の回り品は前年割れが続き、全体では四半期で前年を下回った。

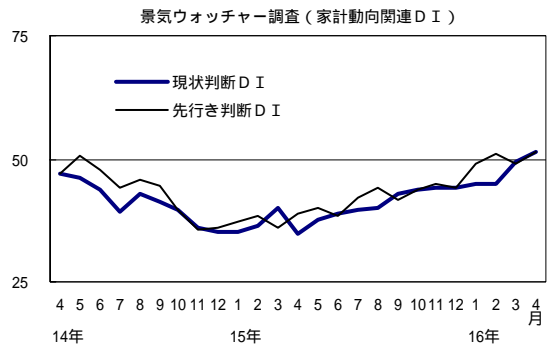
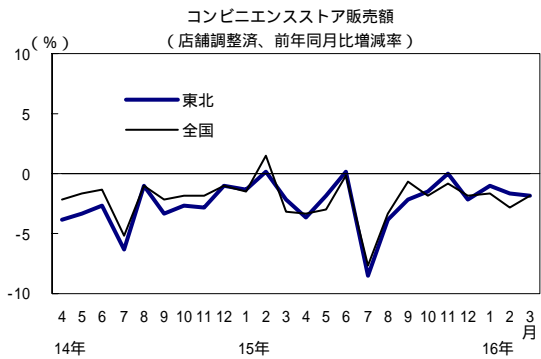
景気ウォッチャー調査（4月調査）[家計動向関連D I（現状判断）]

「物販や催事関連は依然好調であるが、この時期のポイントである返礼ギフト等の需要が例年より慎重な動きで苦戦している。ファッションは、気候が比較的良くリニューアル効果もあって順調に推移しており、前年実績を超えている（百貨店）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比増減率、単位：%)			
	15年4-6月	7-9月	10-12月	16年1-3月
大型小売店	3.9	5.1	3.8	2.3
百貨店	4.5	3.7	1.7	0.5
スーパー	3.6	5.6	4.7	3.3
コンビニ	1.8	4.9	1.2	1.5
景気ウォッチャー	37.0	40.9	43.9	46.4

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニ販売額は店舗調整済。
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は減少している。

分譲はわずかに前年を上回ったものの、持家と貸家が前年を下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は15年度累計で見ると前年度を下回っている。

